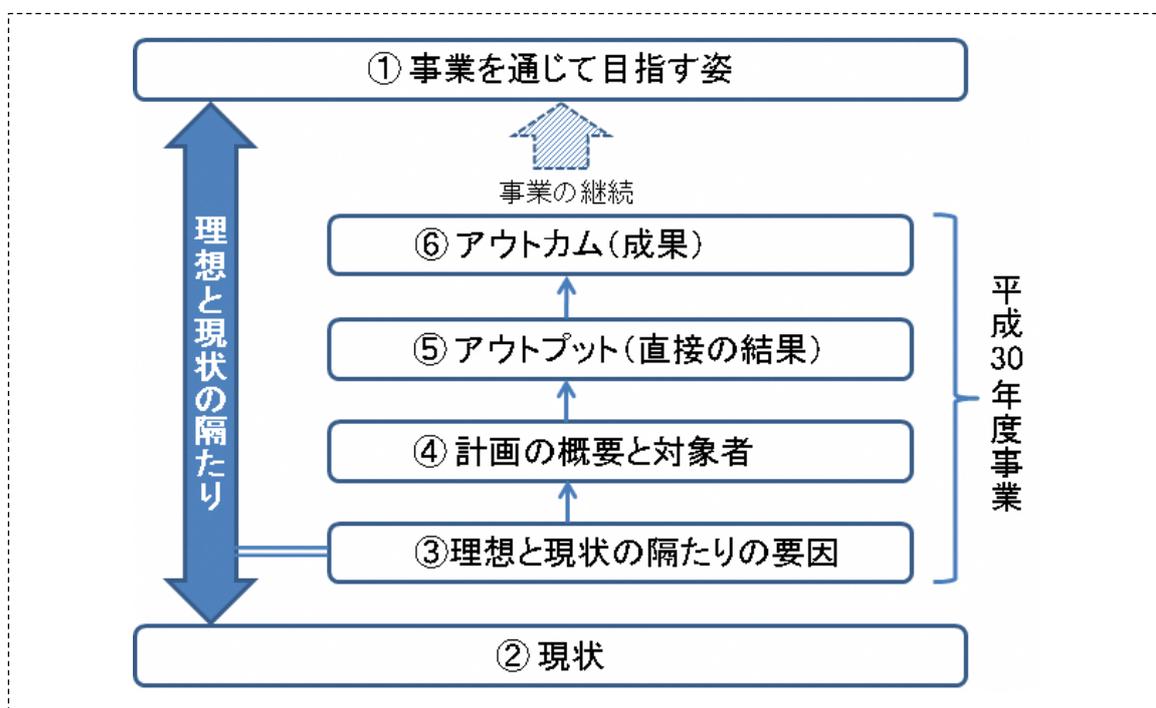


事業計画書

事業名	水島地区における、地域での小さな助けあい活動
団体名	特定非営利活動法人 かけはし

記入する項目の関係図

次の図は、この事業計画書の各項目の関係を示したものです。以下、この図を意識しながら、各項目に記入する内容を検討してください。



1 目指す姿

事業を通じて目指す姿や、事業を実施する目的はどのようなものですか。「地域や社会、人のどんな問題を解決し、どのような状態にしたいのか」を具体的に記入してく

いままで暮らしてきた場所で、暮らし続けたいと希望されている高齢者や障がい者の方々が、普段の暮らしに「ちょっと、困った」ことが起きた時、躊躇なく「ちょっと、お願い！」と気軽に、申し出ることができ、解決されることで、普段の暮らしが継続できる。同時に、支援する側も社会の役にたっていることを実感し、生きがいの創出につながる。

結果的に、地域住民が、暮らしについてお互いに気配り・心配りできることで優しい地域が存在するようになる。

現状

上記 1 の目指す姿と比べて、現在はどのような状況にありますか。

< かけはしの日常の支援の依頼から見えること >

- ・老々介護が増えている。
- ・気になっている人がいても、声をかけにくく、町内の役員や民生委員が声かけても、「大丈夫」といわれ、支援しにくい。
- ・サロンや老人会への参加比率は、地域によって異なる。むしろ参加できていない人が、日常生活に困っている。
- ・かけはしに依頼の、30 分以内で終わる内容として、「資源ゴミを出してほしい」「病院の順番取り」「ちょっとした買い物」「入院中の犬猫の世話」等がある。

< 「高齢者の生活に関するアンケート調査」(今年度実施)の中間報告から >

- ・家計状況は「とても苦しい」「やや苦しい」が 40%、「どちらともいえない」が 46%と金銭的ゆとりがない。
- ・困りごとで最も多いのは「食事」。「庭の草取り」「季節ごとの衣類の交換」。
- ・「話し相手」「買い物支援」の認知度は低いですが、無料なら希望する方が多い。

2 目指す姿と現状の隔たりの要因

上記 1 と 2 の隔たりを生み出している主な原因はどのようなものと考えますか。

< 地域の問題 >

- ・地区内の高齢化と独居率の進行。
- ・町内会では役員が 1 年交代するなど、「困りごと」まで対応できない。
- ・町内の人間関係が希薄、他人さまの家に入ることへの抵抗感
- ・同居人がいると、介護保険での家事援助が厳しくなっている。

< 住民の問題 >

- ・困っていても、周囲の人に「困っている。」と発信できない風土がある。
- ・福祉や行政にお願いする方法がわからない。市政ニュースなどを読めない。読んでいても、「困っている。」と申請することに戸惑っている。

3 計画の概要と対象者(平成 30 年度)

上記 3 で挙げた要因を取り除くため、どのような人を対象に、どのような活動を実施しますか。150 字以内で簡潔にまとめてください(計画の詳細は下記 7 に記入してください)。

高齢者や障がい者の方で、日常生活にちょっとした困り事を抱えている方を対象に、地域住民が協力して支援を行うし仕組みをつくる。町内会、民生・愛育委員、サロン参加者、医療生協、高齢者支援センター等の協力を得て、困り事の発見から、支援者へのつなぎ、ちょっとした困り事(ゴミ出しや買い物)の支援までを行う。

アウトプット（直接の結果）とアウトカム（成果）について

アウトプットとは 事業の直接の結果であり、事業を通じて、どれだけの人に対し、どのようなサービスが提供されたかをいいます。

アウトカムとは 事業の成果であり、アウトプットが地域や社会、人にもたらす変化や効果をいいます。事業はこのアウトカムを生み出せるように計画します。

アウトプットとアウトカムの関係

事業を実施すると、まず、 というアウトプットが生じ、次にその成果として、 というアウトカムが生じる関係にあります。

事業実施 アウトプット アウトカム

アウトプットとアウトカムの例

事業名	活動	アウトプット	アウトカム
学習支援事業	学習会の開催	月 4 回、各回 20 名参加	参加者の学習意欲の向上
就労支援事業	冊子作成・配布	1 千冊作成、800 人に配布	就労に必要な知識の習得
保護者支援事業	居場所の運営	週 2 回、各回 15 名参加	育児の負担感の緩和
移動支援事業	高齢者の送迎	週 2 回、各回 5 名利用	移動手段の選択肢の増加

4 アウトプット（直接の結果）

平成 30 年度の事業を通じて、どれだけの人に対し、どのようなサービスを提供しますか。アウトプットを測る指標と数値目標を記入してください。

- ・事前アンケート調査に協力いただいたサロン 21 か所のうち 15 か所以上への報告研修会を行う。
- ・町内会や民生委員・愛育委員・老人クラブなどへも報告研修会を行う。
- ・事前アンケート協力地域への、研修会参加者から、支援可能な方に対しては、「支援者協力登録（ちょこっと隊）」をしていただく。
- ・しくみについて、協力支援者の方や協力団体の方と、協議し決定していく。
- ・地域関係者の方たちから、モデル地区の了承を得、利用者と支援者との調整を行う
- ・コーディネーターを配置する。
- ・「困った」との依頼を専用電話で受け、「依頼登録者（ありが隊）」を行い。事前情報を得ておく。具体的にサービスに繋げて、暮らしに役立つ支援を行う。
- ・コーディネーターが配置できた地区には、サービス利用の「お試し券」と回数券の発行を行う。
- ・定期的に、コーディネーターや支援者・協力団体との交流・研修を行い、ネットワークを広げていく。

様式第 2 号

指標	現状の数値	事業実施後の数値目標	
報告研修会	20 箇所	0	20 箇所
研修参加者	200 人	0	10 人/箇所 × 20 箇所
支援協力登録者	60 人	0	
コーディネーター	4 人	0	各高齢者支援センターに 1 人ずつ
		0	
支援利用者	50 人	0	モデル地区以外からの依頼にも応える

事業実施後の数値目標は、どのような方法で測りますか。

支援依頼を受けたら、協力支援者に支援を依頼する。
支援が終了後、協力支援者は、「かつどう報告書」をコーディネーターに提出する。
「かつどう報告書」の枚数で、活動数が把握できる。

5 アウトカム（成果）

上記 5 のアウトプットが、平成 30 年度中に、地域や社会、人にもたらす変化や効果はどのようなものですか。

地域での見守り、助け合いが日常的に、ごく普通に行われ、町内会やサロンなど、人の集まる場所で「たすけあいの会」のことが話題にのぼる。
地域から孤立した人が少なくなる。
「ちょっと困った」を気軽に相談でき、早期に解決できる。この為、日常の暮らしが継続できる。そして、要支援・要介護状態を避けられる。
支援者は役割を持つことで、介護予防にもつながり、元気な高齢者が支援の必要な高齢者を支える仕組みができる。

6 計画の詳細

(1) 具体的な内容

内容、対象者、実施期間、実施場所、ねらいなど、できるだけ明確に記入してください。

1. 報告研修会

対象者：事前アンケート調査実施の地域役員やサロン参加者、高齢者支援センター

場所：調査を実施した各地域

実施期間：4～6月

目的：支援協力登録者の発掘

内容： アンケートのまとめ「困った支援」の内容を理解。支援協力者（ちょこつと隊）の登録を勧める コミュニティー間のネットワークづくりにかかわる。

2. モデル地域を選出

対象地区：水島高齢者支援センター内から、1か所地区を選出

実施期間：4～6月

目的：モデル事業として取り組み、仕組みづくりを学ぶ

内容： 助け合いの内容としくみを作る 研修会を実施し、助け合いに必要な知識を学ぶ コーディネーターを選出。おためし券の発行と回数券の発行で支援の実行

3. 「こまった」への支援のスタート。

・支援対象者「ありが隊」：生活問題に「ちょっと困った」高齢者・障がい者

・支援協力者「ちょこつと隊」：支援協力登録者

依頼から支援への繋ぎ： 電話などでの依頼 コーディネーターが自宅訪問で様子伺い・会の説明・支援内容と時間の確認し「ありが隊」に登録する。 お試し券・回数券を購入して頂く。「ちょこつと隊」を探し、支援内容の説明・地図で依頼「ちょこつと隊」による訪問支援。活動終了後チケットを受け取る 終了後「かつどう報告書」をコーディネーターに提出。 コーディネーターが内容確認し、事後調整。「ありが隊」の登録者には、定期的に、コーディネーターから様子伺いの電話や訪問を行い、支援が受けやすい環境や、早期の状態把握・安否確認を行う。

4. 情報の提供

「こまった」の解決を地域で共有。協力団体の友愛訪問など声掛け・町内の回覧板などを活用し、「ありが隊」や「ちょこつと隊」の会員を増やす。社協・高齢者支援センター・医療生協等協力団体のとの連携を図りながら、モデル地域を増やしていく。

スケジュール（準備～実施～報告）

4～6月	<ul style="list-style-type: none"> ・報告研修会 15か所以上のサロンや協力団体ごとに実施 ・コーディネーター養成 ・相談ダイヤル設置（4月） ・必要書類の作成（登録証・名刺・依頼書・かつどう報告書） ・利用パンフレット作製・「おためし券」配布 ・「ありが隊」登録開始 ・回数券発行
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・「ちょこっと隊」研修（講演・事例発表） ・モデル地区（千鳥市営住宅）での支援開始
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・協力団体とのネットワーク会議
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・全体研修：「ちょこっと隊」を含む（講演・事例集の報告） ・事例集発行（100冊）：協力団体・各町内とサロン等 ・協力団体とのネットワーク会議 ・報告

と「困った」事例の演習

(2) 実施体制

上記(1)の計画を実施するにあたり、実際に取り組む団体会員を記入してください。また、人件費を支払う予定の団体会員には、人件費欄に「有」を記入してください。

氏名	事業に有効な資格や経験	人件費
猶原真弓	介護支援専門員	
福田幸恵	介護支援専門員・看護師	
山本幸子	事務	
片岡淑子	介護福祉士	
10名を超える場合は、外 名としてください		外（ ）名

7 受益者負担 事業の財源確保のため、可能な限り参加費や受講料などを徴収してください。

(1) 徴収する（見込み：支援利用料：回数券 15分/150円）

(2) 徴収しない（理由： ）。

収支予算書

1 収入の部

科目	内訳	金額(円) ₂	積算根拠
受益者負担		15,000	1,000円×15人
会費からの繰入		0	
その他		109,000	寄付
市補助金		300,000	
収入合計		424,000	(支出合計と一致)

2 支出の部

科目	内訳	金額(円) ₂	積算根拠
人件費(会員) ₁		24,000	1000円×12回×2人
交通費(会員) ₁		6,000	訪問ガソリン代(60円×100回)
人件費(アルバイト等)		150,000	(1,000円×5h×1人×12回)+(1,000円×5h×3人×6回)
		22,000	900円×4h×6回 事例集発行作業
		15,000	お試し券150円×100枚
謝金(講師等)		20,000	研修会講師料10,000×2回
旅費交通費(講師等)		10,000	5,000円×2回
消耗品費		30,000	コピー用紙・名刺・名札
印刷製本費		20,000	研修会20回・会のパンフレット作製
通信運搬費		50,000	協力団体82円×50か所×2回 専用電話 3,500円×12ヶ月
保険料		21,000	350円×60人
使用料・賃借料		6,000	研修会会場費2回(3,000×2回)
外注費・委託費		50,000	事例集発行等
対象経費計		424,000	
食糧費		0	
人件費			
その他			
対象外経費計			
支出合計		424,000	(収入合計と一致)

1: 会員に支払う人件費と交通費の合算額は、対象経費計の1割を上限とする。

2: 金額欄は切り上げて千円単位で記入してください。